

授業科目等の概要

(医療専門課程 理学療法科 昼間I部) 2022年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			国際教育学	グローバルな感性を養い、医療英語を習得し、医学英語文献が読めるようになる。	1年前期	30	2	○			○			○		
○			情報社会学	コンピュータの基本的な操作方法を学び、ワード、エクセルなどのソフトウェアの使用方法を習得し、症例検討会資料の作成ができる。	1年前期	30	2	○				○			○	
○			心理学	「こころ」と「からだ」と「社会」の枠組みの中で、身体的な病気と心身の病における心理・社会・生物学的要因の相互作用を理解できるようになる。	1年前期	30	2	○				○			○	
○			教養演習	臨床実習に備えた文章読解力や説明能力を養う。	1年前期	30	2	○				○		○		
○			自然科学	生理学の基礎を学習します。理学療法分野で利用される物理現象を学びます。	1年前期	30	2	○				○			○	
○			統計学	医療に必要な統計手法を使えるようになる。	3年前期	15	1	○				○			○	
○			保健体育	スポーツ活動を通して、スポーツに伴う身体の変化、障害の発生、予防法を学び実践できるようになる。	1年前期	45	1			○	○	○	○			
○			人間関係論	社会人としての適切な言葉遣いや態度を学び、良好なコミュニケーションをとることができるようになる。	1年後期	30	2	○				○			○	
○			解剖生理学Ⅰ	人体の構造を中心に、関連する機能を学ぶ。	1年前期	30	2	○				○			○	
○			解剖生理学Ⅱ	人体の構造を中心に、関連する機能を学ぶ。	1年前期	30	2	○				○			○	
○			解剖生理学Ⅲ	人体の構造を中心に、関連する機能を学ぶ。	1年後期	30	2	○				○			○	
○			解剖生理学Ⅳ	人体の構造を中心に、関連する機能を学ぶ。	1年前期	30	2	○				○			○	
○			解剖生理学Ⅴ	人体の脳・神経系・感覚器系・内臓系の構造について学びます。中枢神経系と運動器系のつながりを理解することができる。	1年前期	30	2	○				○			○	

○		理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価の概要、目的などを理解し、血圧測定・形態計測・関節可動域測定を行うことができる。	1年後期	30	2	△		○	○	○							
○		理学療法評価学Ⅱ	徒手筋力検査法の意義・方法論などを理解し、実技を通して徒手筋力測定ができるようになる。	2年前期	30	2	△		○	○	○							
○		理学療法評価学Ⅲ	中枢神経疾患の評価、整形外科テスト法ができるようになる。	2年後期	30	2	△		○	○	○							
○		理学療法評価学演習Ⅰ	理学療法評価の概要を理解した上で、評価項目・手順を理解し、評価を行うことができる。	2年後期	15	1		○		○	○							
○		理学療法評価学演習Ⅱ	理学療法評価の概要を理解した上で、評価項目・手順を理解し、行った評価から問題点の抽出をすることができる。	3年前期	15	1		○		○	○							
○		OSCEⅠ	臨床実習Ⅲ、Ⅳにて検査測定、評価が実践できる。	2年後期	30	2		○		○	○							
○		OSCEⅡ	臨床実習Ⅴ、Ⅵにて検査測定、評価および治療プログラムの実施ができる。	3年前期	30	2		○		○	○							
○		基礎運動療法学Ⅰ	関節可動域運動・筋力増強運動など、基本的な理学療法治療技術を学び理解することができる。	1年後期	30	2	○			○	○							
○		基礎運動療法学Ⅱ	起居動作の観察及び文章化ができる。また、観察したことの分析ができる。	2年前期	30	2	○			○	○							
○		筋骨格系障害理学療法治療学Ⅰ	整形外科疾患の評価・治療を実践することができる。	2年前期	30	2	○		△	○								○
○		筋骨格系障害理学療法治療学Ⅱ	脊髄損傷の評価・治療を実践することができる。	2年前期	30	2	○			○								○
○		筋骨格系障害理学療法治療学Ⅲ	スポーツ外傷・障害に対し、評価・治療について学び、技術を習得することができる。	2年前期	30	2	○		△	○		○	○					
○		中枢神経系障害理学療法治療学Ⅱ	脳血管障害についての評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年前期	30	2	○			○								○
○		中枢神経系障害理学療法治療学Ⅲ	神経筋障害についての評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○		△	○								○
○		中枢神経系障害理学療法治療学Ⅳ	小児・老人疾患について理学療法評価および治療について学び技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○			○								○
○		内部障害理学療法治療学Ⅰ	心臓疾患に対する理学療法評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○			○								○

○		内部障害理学療法治療学Ⅱ	呼吸器疾患に対する理学療法評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○				○				○
○		内部障害理学療法治療学Ⅲ	腎疾患、嚥下、糖尿病、癌に対する理学療法評価、治療について学び、技術を習得することができる。	2年後期	30	2	○				○				○
○		機能障害学特論Ⅰ	骨関節・神経・内臓系の構造と機能について解剖・生理学の知識の整理をし、その繋がりについて説明することができる。	3年前期	30	2	○				○				○
○		機能障害学特論Ⅱ	運動学について解剖・生理学の知識をもとに説明することができ、臨床運動学に応用することができる。	3年前期	30	2	○				○				○
○		機能障害学特論Ⅲ	整形外科・神経内科・内科的疾患について解剖生理運動学の知識をもとに説明することができる。	3年後期	30	2	○				○				○
○		機能障害学特論Ⅳ	骨関節系・中枢神経系・内部障害系疾患に対する理学療法を、疾患学をもとに考え説明することができる。	3年後期	30	2	○				○				○
○		物理療法学	物理療法の概念や適応・禁忌を学び理解することができる。	2年前期	30	2	○				○				○
○		物理療法学演習	物理療法の実技を通して機器の使用方法を習得することができる。	2年後期	30	2		○			○				○
○		日常生活活動	日常生活活動の概念や使用機器の知識を深め、日常生活活動の実技を通して、その評価・治療技術を習得することができる。	2年前期	30	2	○				○				○
○		義肢装具学	義肢・装具の構造と機能、各疾患の適応について理解することができる。	2年前期	30	2	○				○				○
○		義肢装具学実習	実技では実際に義肢・装具を観察、装着して理解することができる。	2年前期	45	1					○	○			○
○		理学療法学演習Ⅰ	解剖学生理学の国家試験過去問題を中心に解き、間違っている箇所について説明できる。	1年前期	30	2		○			○				○
○		理学療法学演習Ⅱ	解剖学生理学の国家試験過去問題を中心に解き、間違っている箇所について説明できる。	1年後期	30	2		○			○				○
○		理学療法学演習Ⅲ	理学療法評価の国家試験過去問題を中心に解き、間違っている箇所について説明できる。	2年前期	30	2		○			○				○
○		理学療法学演習Ⅳ	臨床医学の国家試験過去問題を中心に解き、間違っている箇所について説明できる。	2年後期	30	2		○			○				○
○		生活環境論	社会的な生活環境の理解を深め、在宅医療におけるアドバイスができる。	2年前期	30	2	○				○				○

○		地域理学療法学	地域理学療法の意義・現状について学び、現在の社会の流れについても理解し、社会資源の活用のアドバイスができる。	3年前期	30	2	○			○	○		
○		臨床実習Ⅰ	実習施設の見学を中心に、全体業務全般の理解ができる。	1年後期	45	1			○	○	○	○	
○		臨床実習Ⅱ	実習施設の見学を中心に、全体業務全般の理解ができる。	1年後期	45	1			○	○	○	○	
○		臨床実習Ⅲ	臨床実習指導者のもと、検査測定を中心に理学療法評価ができる。	2年後期	90	2			○	○	○	○	
○		臨床実習Ⅳ	臨床実習指導者のもと、理学療法評価ができる。	2年後期	135	3			○	○	○	○	
○		臨床実習Ⅴ	学んだ知識・技術を活かし、臨床実習指導者のもと、治療プログラムを立案し、理学療法ができる。	3年前期	315	7			○	○	○	○	
○		臨床実習Ⅵ	学んだ知識・技術を活かし、臨床実習指導者のもと、治療プログラムを立案し、理学療法ができる。	3年前期	315	7			○	○	○	○	
				84科目	3120単位時間(156	単位)				

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、実習の結果、履修状況等を総合的に勘案して行い、校長は課程修了の認定を行う。	1 学年の学期区分	前後期	
	1 学期の授業期間	17週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。